

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL63 平成24年1月



## 米子は大きなホスピタウン 真誠会モデルづくりをめざして

新年明けましておめでとうございます。

本年は医療法人真誠会が誕生してから24年目を迎える年です。

その24年の間に介護保険が誕生し、その後次々に制度の改正が行われてきました。そして本年4月から介護保険、医療保険の同時改訂ということで制度が大きく変わろうとしています。

真誠会も過去23年、制度の改訂の後を一生懸命についてきました。しかしながら真誠会誕生24年目を迎える今年は真誠会も成長した組織として“制度の後を追う”のではなく、“制度の前を行き”、制度で要求されるレベル以上のものをいわゆる真誠会モデルとして提供できるようにしたいと思います。

平成23年12月から本年3月までは米子市から委託の、24時間対応定期巡回・随時対応サービスモデル事業として、訪問看護・介護を行っております。この事業には日本でも一番最先端の緊急連絡システムを実用化しており、高齢者の見守りを画期的に進歩させることが出来ました。

この24時間対応定期巡回・随時対応サービスモデル事業での見守りシステムは、平成24年米子市が制度化されれば真誠会は最高のサービスを提供できるようになると思います。

また制度上必要な介護保険事業を行なうだけでなく「高齢者生活支援隊」という組織をつくり、御弁当の宅配から福祉用具の貸し出し、さらにお買い物代行サービス、住宅改修、見守りなど、高齢者の生活に必要なものを提供して参ります。

また一方では、個人個人に対する医療福祉サービスだけではなく、弓浜ホスピタウン(大崎)、米子ホスピタウン(河崎)、米子中央ホスピタウン(西福原)の三つのホスピタウンを中心として高齢社会を支える街づくり、人材育成、ネットワークの構築などを一体的に推し進めたいと思っております。

この構想が実現すれば、米子市全体のあらゆる場所でホスピタウンの息吹を感じ、ホスピタウンが提供する安心感を享受していただけるようになると思います。

その時に「米子は大きなホスピタウン」となるでしょう。

そしてこの真誠会モデルがこれからの高齢社会を支える一つのモデルとして高く評価され、米子市、鳥取県だけではなく全国的なレベルで評価されるものにしたいと思います。

「米子は大きなホスピタウン」これが私の夢です。

皆様にとって本年が良い年になりますことを心よりお祈り申し上げます。



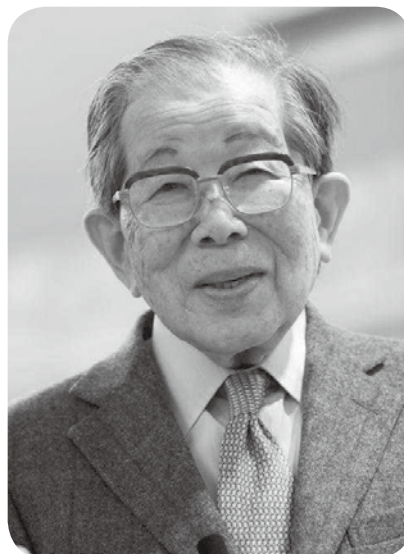
社会福祉法人 真誠会  
医療法人 真誠会  
理事長 小田 貢

聖路加国際病院 理事長 医療法人真誠会 名誉理事長

## 日野原 重明先生

5月20日(日)に米子講演決定!

演題:「逆風にめげず凛々しく生きる」



昨年 10 月 4 日で 100 歳になられた日野原重明先生が、本年 5 月 20 日 (日) 米子コンベンションセンターで講演されることが決まりました。

日野原先生は 100 歳を迎えてからも以前にもまして活発な活動を続けておられます。私たち鳥取の日野原先生ファンのために米子講演を快諾してくださいました。

まだ確定的なスケジュールは立っておりませんが、5 月 20 日 (日) 午後から日野原先生の講演があり、翌日 5 月 21 日 (月) は日野原重明先生と小田貢理事長の対談の録画を予定しております。

7 年前に日野原重明先生と、堀田力先生 (弁護士・さわやか福祉財団理事長/昭和 51 年、東京地検特捜部検事 (ロッキード事件担当)) をお迎えし、米子コンベンションセンターを満員にしての講演会が行われました。今回はそれをしのぐすばらしい企画にしたいと思っております。米子市民の皆様には楽しみにしていただくと同時にこの企画の実現に向かってご協力をお願い致します。

また、本年 3 月 11 日には東日本大震災から一年になります。5 月の日野原先生講演会の際には被害に遭われた東北地方の皆様のお励みになる何らかの企画をしたいと思っております。米子市民の皆様、ホスピタウン便り読者の皆様方のアイデアを頂きたいと思います。

## 「米子市認知症徘徊見守り模擬訓練」 報告

平成 23 年 10 月 22 日、米子市内で初めて「米子市認知症徘徊見守り模擬訓練」が和田町で開催されました。訓練の内容は、小規模多機能センターふる里ご利用の認知症の方が自宅から姿が見えなくなり、家族が警察に届出をされ、防災無線放送が地域に流れ行方が分からなくなった認知症の方を地域総出で探し出すというものです。発見したらそこで終りではなく、警察に連絡しパトカーで保護され家族の元へ無事戻るまで、という本格的なものでした。

集会所単位で構成された自治防衛組織などを中心に、訓練協力者は約 400 人に上りました。訓練が終わった翌日から、「防災無線が流れると窓を開けて聞き、見守りに出る人が増えた」「地域住民の関心が高まった」との声も聞かれ、「地域ぐるみの見守り運動の啓発」はこの訓練によって達成されました。この訓練を機会に、ますます地域団結!! 継続の意識づけと啓発活動を地域ぐるみで展開していかれるそうです。



地域の方々と捜索方法について協議中



ネギ太郎さん無事に発見! 警察官、身元確認中!

## 「第7回弓浜助け合いネットワーク」シンポジウム開催 認知症の方を災害・事故から守るために

平成 23 年 11 月 27 日 (日)、「第7回弓浜助け合いネットワーク」が弓浜ホスピタウン 2000 年ホールで開催されました。弓浜地域の住民をはじめ、関係者約 300 人が参加した今回の大会では、弓浜地域における福祉のまちづくりの事例を示す意見発表とともに、米子市内の作業所の即売会や、和田で綿作りに取り組む展示コーナー、メーカーによる緊急連絡システムの展示説明などもあり、大勢の人でにぎわいました。

第7回目となる今回のシンポジウムは、「認知症の方を災害・事故から守るために」をテーマに挙げ、基調講演では、医療法人・社会福祉法人真誠会／NPO 法人がいなネット 小田 貢理事長が、「地域包括ケアシステムと高齢者生活支援隊」について講演しました。続いて、彦名地区社会福祉協議会会長の大西 鶴一氏による「彦名地区ふれあい・いきいきサロンの活動」では、地域交流 サロンでの地元に着目した活動の事例発表が行われました。米子市長寿社会課の小椋善文氏からは、10月22日に和町で行われた米子市初の認知症徘徊見守り模擬訓練の成果についての発表があり、400人体制で協力した和町住民への感謝の意も表されました。また、平成23年正月の豪雪による認知症高齢者とその家族への影響を、米子市弓浜地域包括支援センターの竹内丈氏が通所施設利用者の家族へのアンケート結果を元に報告しました。

会場には、ソフトバンクとフィリップスの展示ブースが設けられており、両社の通信機器を利用した山陰初の取り組みである、真誠会「緊急連絡システム」について、社会福祉法人真誠会 前田 浩寿氏が紹介しました。講演終了後、多くの人々が両社のブースに説明を聞きに立ち寄りしていました。

「弓浜地区に広がる助け合いのネットワークと合わせて、医療・福祉連携体制を整備し、在宅で安心して暮らせる生活基盤づくりを支援するシステムを『真誠会モデル』として構築し、地域住民のお役に立てれば良いと願っている」と小田理事長が語り、盛況のうちにシンポジウムは終了しました。



夜見・富益・和田・崎津・彦名・大篠津6校区から、300人以上が参加されました。

小田理事長の基調講演。  
「先進的なモデル地区として、皆さん、がんばりましょう」



大西会長からは、彦名地区のサロンの取り組みを紹介いただきました。



小椋氏は、400人が参加した、和町の徘徊模擬訓練の様相をふりかえりました。



前田氏は、家族に起こった事故の例に触れながら緊急連絡システムを紹介しました。



竹内氏が撮影した徘徊模擬訓練の映像を紹介した後、豪雪の影響をまとめました。



講演者とスタッフ、そして会場が一体となり、「ふる里」を合唱しました。

## 施設長から新年のご挨拶



介護老人保健施設  
弓浜ゆうとびあ  
施設長 五明田 孝

卯年の昨年は大変な一年でした。豪雪に始まり地震、水害、猛暑に加え原発事故と災害に明け暮れた年でした。

安全といわれていた日本での原発事故の発生が世界的に脱原発の機運を一気に高めています。しかし自然エネルギーへの転換が容易でない現状で果たして見直しが必要か否か再考の余地が有るように思えます。

私はかつて原発周辺の放射線監視・調査を行う研究機関の全国協議会会長として全国 13 道、県の全原発立地を実地に訪問し、その安全性や事故対応策について討議を行いました。各施設とも地震そのものに対する安全策は十分図られていると確信していました。今振り返ってみると対策の中に各施設ともこの度のような津波に対する検討や備えが十分認識されいなかった点を非常に残念に思います。

日本の原発の安全性についてはこれまでも評価が高く、事故後も日本からの導入を希望している国々がある位です。人間が作り出した道具は過去の事故を教訓としてより安全性の向上に改善・改良に努力され続けています。今回の事故原因を徹底的に検討し津波にも十分対応できる世界一安全で世界の手本となるように進化させて行く道も残されているように思えます。

当施設でも昨年の豪雪、更には原発事故（島根原発の 30 キロ圏に立地）や津波などに対する安全対策をハード・ソフト両面より真剣に考え直す必要性を痛感しています。

何はともあれ辰年の今年が素晴らしく幸せな年になるよう願っています。



介護老人保健施設  
ゆうとびあ  
施設長 中下 英之助

3.11 の東日本大震災と巨大津波により引き続き起こされた福島原発事故は、日本列島が周期的におきる地震、津波、火山の噴火により壊滅的被害と復興を繰り返す自然災害多発地帯にあるという事実が再認識されました。

『地震の日本史』によると、日本は古来より大地震が繰り返され、近世でも安政地震は開国、明治維新の前触れとなり、首都圏を壊滅した関東大震災は日本の針路に大きな影響を与え、昭和の東南海地震は終戦に引き継がれるなど歴史の転換期に一致しているようです。

関東地方の相模湾トラフは 2 つの大陸プレートにフィリピン海プレートと太平洋プレートが沈み込むという世界に類例のない複雑な地殻を形成しており、南海トラフによる東南海地震と共に首都圏は大震災の到来が予測されています。南関東地方を中心とした首都圏は日本の 30% を超える人工密集地域であり、首都圏への政治経済機能の一極集中が進んでいます。また政府による国債発行もうなぎ登りに増加しており、消費税増税など改革の掛け声は聞かれますが実効性の如何によっては、大戦後の高度成長による経済大国の崩壊が懸念されます。首都圏や東南海地震による壊滅的被害や地方大都市で起こる維新の会を始めとする地域政党の台頭は戦後体制に終止符を打ち、再度の復興を繰り返すという古代からの繰り返しになるのも、あながち荒唐無稽な夢物語とも思えません。

今年で年金受給の 65 歳になりましたが、地震・火山のハザードマップから見れば無印の地域である、米子の地に住んでいることを感謝して、キリギリスでなくアリの生活を続ける方がベターな選択に思えます。



介護老人福祉施設  
ピースポート  
施設長 矢倉 敏久

弓浜ホスピタウンのすぐ裏側に崎津団地があります。ここに、ケータイ電話のソフトバンクが大規模な太陽光発電所を建設することを検討しています。

私は、真誠会の施設長になる前には米子市役所で経済部長をしていましたが、市の財政のお荷物である崎津団地に企業を誘致して、土地を買うか借地していたことは最も重要な課題でした。当時、経済部の中に崎津・流通業務団地営業課という変な名前の課があり、手当たり次第に企業にセールスを行っていました。太陽光発電所も電力会社やソーラーパネルのメーカーに提案しましたが、成功しませんでした。福島の第 1 原発の事故から、政府が安全な自然エネルギーの利用を推進していますので、今回は非常に有望です。崎津地区が全国に知られ、発展するチャンスです。是非実現してほしいと思います。

ところで、米子市には「企業立地成功報奨金」という制度があります。これは、米子市が持っている崎津団地か流通業務団地の土地を買ってくれる企業を紹介した人に、分譲価格の 1% を報奨金として差し上げるという制度です。紹介者になるだけで大金がもらえますよ。皆様いかがですか、今の内ですよ。

# 米子地域包括ケアセンター誕生!!



真誠会米子地域包括ケアシステム準備室  
室長 小山 雅美

平成 24 年春

施設が変わる 在宅が変わる 介護保険が変わります!!

これからの高齢者の暮らしの変化についてお話しします。  
現在、介護保険施設は新たに増えていくことはないと言われています。

そうすると、今暮らしておられるご自宅が介護保険施設以外の住まいで生活していかなければならなくなります。

いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けていくためには？

施設ではご入居の方が「お手洗いにいきたくなくなった」と思うと、コールで職員に知らせてくださいます。「おはようございます。お薬は飲めましたか。調子はいかがですか。」と、コールを押されなくても職員が居室へお伺いします。このように施設での生活を地域へ展開していくことが、住み慣れた地域で暮らし続ける方法の一つとして考えられています。このことを大きく「地域包括ケアシステム」と呼んでいます。

真誠会では「米子市 24 時間対応の定期巡回・随時対応サービスのモデル事業」の委託を受け、施設の地域展開を試行錯誤のなか繰り広げています。

また、訪問看護、訪問介護、訪問リハビリ、ケアマネジャーの他職種同士が、同じフロアで顔の見える関係を作り、今まで以上にご利用者の支援体制が構築できるよう『真誠会米子地域包括ケアセンター』を開設しました。(既存の米子市地域包括支援センターとは違いますので、お間違えのないように・・・)

地域の高齢者の方、介護されているご家族が、いつでも助けを呼ぶことができる、いつでも安心感を持って生活できることを目標にしています。

24 時間の見守り支援など、地域との繋がりを大切に、『真誠会米子地域包括ケアセンター』は、地域へ出かけて参ります。



訪問リハビリテーション  
課長 大西 博巳

「住み慣れた自宅で、安心安全にその方の有する能力に応じ自立した生活が送れる」を目的にケアマネ・ヘルパー・訪問看護との多職種協働を積極的に取り組みます。



訪問介護真誠会  
管理者 松田 久美子

昨年 12 月 1 日には、米子市委託 24 時間定期巡回・随時対応サービスモデル事業を開始しました。今年目標は、モデル事業を成功させ、その実践をもとに、4 月から始まる 24 時間巡回訪問介護サービスの充実を図り、米子市のモデル事業所と言われるようになることです。また、訪問看護等との連携を図り、地域包括ケアシステムの実現を図ることで。



居宅介護支援事業所 真誠会  
管理者 松本 智美

包括ケアセンターでは、毎週ケアカンファレンスを開催し、利用者様を多方面から多職種でアセスメントしプランに繋げています。包括ケアセンターには、他職種が事務所に共にしています。情報が即座に入り、今まで以上に対応が早くできるようになったと感じています。多職種から良い影響や刺激を受け、前向きな気持ちで仕事に取り組み、また他職種へ影響を与えられることを目標に日々前に進んで行きたいと思っております。



訪問看護ステーション  
ネットケア  
管理者 岡田 悦子

訪問看護ステーションは、介護予防から看取りまで幅広く療養者の生活を支援すること、望まれる生活の質を高めることが役割です。しかしながら訪問看護師だけで支える事はできません。包括ケアセンターの職種がチーム一体となって情報交換、ディスカッションをくりかえし、大きなチームで地域の方々よりよい暮らしを支援していきたいと思っております。

平成24年介護保険制度改正についてのお問合せは、

**真誠会地域包括ケアシステム準備室 (電話：24-5557) まで。**



# 辻田耳鼻咽喉科



辻田耳鼻咽喉科  
院長 辻田 哲朗

## 今年は辰年

今年は辰年。ホスピタウンが誕生したのがちょうど 24 年前でしたので、今年ホスピタウンは 2 回目の年男になります。そして、辻田耳鼻咽喉科は 23 年目を迎えます。もう 23 年もたったのか。それが正直な感想です。でも、患者さんの中に昔小さな子どもだった人がいつの間にか大人になり今度はその子どもを連れてやって来られるのを見るとさすがに年を感じてしまいます。

誰もがそうだったと思いますが、やはり昨年の東日本大震災とそれに続く原発事故が今でも自分の中でもとても大きく押し掛かっています。地震や津波は地球がちょっとくしゃみをしただけにしかすぎません。自然の力の前では人間がいかに無力な存在だったのかが身にしみました。原発事故も東京電力だけの責任でなく、過去の教訓があったのに自然を甘く見ていた日本人全員の責任です。

その原発事故については色々考えさせられました。原発は人間にとって有益でないのは誰でも容易に理解できますが、かと言って他に有効な代替エネルギーは今の所見当たりません。原発反対、原発停止と叫んでも我々は現に原発からの利益を得ている訳で、ジレンマに陥ってしまいます。脱原発までにはまだまだ年月を要します。そこで自分でもできることから始めようと思いました。まず、節電のためにライトを LED に変えました。そして、なるべくエネルギーを自分の所でまかなえるよう太陽光発電を設置しました。これなんかも微々たるものにしかすぎませんが、脱原発に対して自分が出した一つの答えだと思っています。

それと震災によって改めて命について考えさせられました。当たり前ですが、今自分は生きている。生きるってどういうことだろう？死んだらどうなるんだろう？一体何処にいくんだろう？そう考えはじめたら益々わからなくなってしまいます。昔、小学生の時に母に「ボク、死んだら何処行くの？」と聞いたら、「そんなとこ、行ったことないからわからん」そりゃそうだ。小学生のボクは妙に納得しました。今でもそして永遠にその答えはわからないでしょう。その母は 55 歳で亡くなりました。いつのまにかボクはその母の年齢を過ぎました。今生きている、生かされていることに感謝です。よく考えたら日野原先生の半分ちょっとしか生きてません。まだまだ青二才です。まだまだ成長できる余白はたっぷり残っています。

人間なんて地球にとってはアリみたいな存在だと考えると、日々の小さなことにくよくよする自分がばかばかしく思えてきます。生きていることに感謝しながら今年も頑張ります。



今年もよろしくお願いたします



# いえはら歯科



## 2012 年頭のご挨拶

いえはら歯科

院長 家原 猛

新しい年を迎えるにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。  
旧年中のご愛顧ならびにご高誼に対し、心より感謝申し上げます。

昨年はお正月から山陰地方は豪雪に見舞われ、多大なる船舶の被害やいたるところの樹木、貴重なる大樹がひどく傷ついてしまいました。そして 3・11、未曾有の東日本大震災が発生し、大津波や原発事故での被害で、今もなお極めて厳しい状況下での生活、不安な生活を強いられている多くの方々に、心よりお見舞いを申し上げます。また、改めて無念にも命を落とされた多くの方々のご冥福を衷心よりお祈りしたいと思います。

秋には台風 12 号が記録的な豪雨で甚大な土砂災害を紀伊半島に、そして台風 15 号が多大な降雨で東海地方を襲いました。国内外を問わず、地震や水害にまつわる近年の災害の多さには心を痛めるばかりです。

2012 年は、人々の支援の結集が新たな萌出につながるよう願いを込めて、本格的な復興の年、または序奏の年となることを願いたいと思います。

2011 年 7/17 私は、第 31 回の全日本トライアスロン皆生大会に初挑戦しました。翌 7/18 未明は、FIFA 女子ワールドカップの決勝、「なでしこ JAPAN」vs U.S.A.

数年を懸けてそれなりの準備はしてきたつもりでした。が、残念ながら完走のゴールテープを切ることはできませんでした。しっかりと諦めない精神で完走を果たし、力強く「なでしこ」を応援したかった。

予選リーグの快進撃から決勝トーナメントへ。「なでしこ」のパスサッカーに心躍った。準々決勝、開催国で格上と思われたドイツに延長の末 1-0 で粘り強い勝利。その勢いで準決勝スウェーデンを 3-1 で撃破、そして、決勝。これまで 20 回を超える対戦で 1 度も勝てなかった相手。形勢は不利？ いや、最高の舞台上で最高の相手との対戦となった。

試合は、相手に先取点を決められ後手に回る展開。しかし、宮間のゴール前での臭覚ある動きと判断あるアウトサイドでのシュートで同点。両者決め手を欠いてそのまま延長へ。そして再度リードされた延長後半 11 分、左コーナーキック宮間-澤のホットラインから生まれた奇跡のニアサイドの同点ゴール。PK 戦は、追い着き、気持ちのしっかりしていた「なでしこ」の優勢勝ち。

ワールドカップを頭上に掲げ、金色の紙吹雪の舞う表彰台の上の彼女たちの輝いていたこと。日本中に明るい希望と勇気を与えてくれた。まさに、国民栄誉賞ものであった。

後の裏話として、首脳陣が試合の前に震災の映像を選手たちに見せて、士気を鼓舞したと聞いた。この心の繋がりがこそ、国を代表するナショナルチームの絆のかたちと思った。佐々木監督、あっぱれ！女子チームをまとめる指揮官としての力量にも、あっぱれ！

それで、私の 2012 年。昨年落としてきたもの、私の心との絆をもう一度繋ぎに行く、復活の年にしたいと思う。最後になりましたが、皆様、本年も何卒ご厚誼の程、よろしく願い申し上げます。

## レントゲン検査と被曝

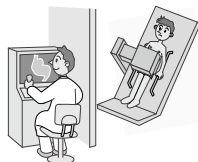
病院でレントゲン検査を受ける際に、放射線による被曝やそれによる影響を心配される方がいらっしゃいます。最近では、原発事故もあり TV などによく耳にする言葉になったこともあり、心配されている方が増えたのではないのでしょうか？

今回は、よく質問があったレントゲン検査と放射線被曝についてお話ししたいと思います。

当院の一般にレントゲン検査と言われているものは X 線を用いています。

それにより受けた線量がどれくらいであるかを表すためにシーベルト (Sv) という単位を使います。一般的な X 線検査で 1 回あたりの被曝線量は以下のとおりです。

- 胸部レントゲン  
…約 0.05mSv (ミリシーベルト)
- 胃(バリウムによる検査)  
…約 3.3mSv
- 頭部 CT  
…約 1.5mSv
- 胸部 CT  
…約 7.0mSv



身体に影響が出現するのは一度に全身に 200mSv を超える放射線を受けた場合と言われています。胸部レントゲンが 0.05mSv なので 4000 回以上検査しなければ 200mSv を超えることはありません。また、意外なようですが私たちは自然界からも放射線を浴びています。その平均が 2.4mSv と報告されています。しかも、病院での検査は全身ではなく一部分に限られていますので、まず問題ありません。

レントゲン検査は身体の様々な情報を得る大切な検査です。安心して検査を受けて頂ければと思います。また、分からないことや不安なことがあれば、お気軽に医師や放射線技師にお尋ねください。丁寧に説明させていただきます。

# 新年のご挨拶 ～本年も



看護介護統括部長  
三ツ木 育子

## 新年を迎えて蛙の決意

4月に入職して12月現在、9ヶ月が経過しました。急性期医療の世界から地域医療・福祉の世界に飛び込んだ、井の中の蛙は、激動する介護・福祉の大海原で、理事長をはじめ多くの方々のご指導やご支援を受け、溺れそうになりながらも、大海原の魅力に引き込まれ手足をばたつかせ泳いでいるのか… 流れているのか…。

ただ1点見つめているのは、高齢者の生活をしっかり支える全事業所スタッフのキャリア支援と人財育成です。

9ヶ月間に私が行った主な活動は、

- スタッフのメンタルサポートと支援体制構築の取り掛かり
  - ・「心理相談室」を活用した心理相談面接
  - ・メンタル不調者の「復職支援トレーニング」勤務の実施と支援
  - ・メンタルヘルス意識向上にむけた研修企画
- 人財育成のための教育的関り
  - ・各専門職のキャリアUPセミナー研修の講師
  - ・介護職員の痰吸引に関する基礎研修と指導看護師の育成研修派遣
- 提供サービスの質担保と施設基準を遵守する監査
  - ・老人福祉施設「ピースポート」の指導監査支援
  - ・各事業所の施設・記録の内部監査
- 地域包括ケアシステム導入準備
  - ・24時間定期巡回・随時対応サービス提供における人員確保と体制作り
- 人員確保のための広報活動 等々

会議、委員会、面談、ボランティア等を通して交流し、多くの優秀なスタッフを知ることが出来ました。そして、先達が脈々と築き上げてこられた活動を尊重し、継承しながら2年目を迎える蛙は、のぼり龍の背に乗って今年は、更に発展するよう新たな発想を加えて行きたいと考えています。

継続は力です。何よりも一人一人のスタッフがやりがいを持って働き続けられる職場づくりに邁進いたします。



介護老人保健施設  
ゆうとぴあ  
看護師長 小徳 美千子

昨年は未曾有の災害があり、日本全体が大きな悲しみに包まれた一年でしたが、皆様にはお健やかに幸多き新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は介護老人保健施設「ゆうとぴあ」が1995年の開設から丸16年目を迎えます。その間に介護保険の制定、3年毎の改正と高齢者を取り巻く環境はめまぐるしく変化しています。その変化に対応できるよう、施設のあり方も変化しております。

今までは、施設の中で満足していただける介護の提供が中心でしたが、平成24年は地域包括ケアシステムの導入により、老健施設の役割でもあります、在宅支援、地域との関わりを重要視した地域での介護に力を入れて行きたいと考えています。

利用者様の思いを尊重した、望ましい在宅生活、施設生活を過ごしていただけるようなチーム作りをして、地域の方々に選んでいただける施設を目指して職員一同力を

合わせていく所存でございます。



介護老人保健施設  
弓浜ゆうとぴあ  
副看護師長 椿久美子

現在は「少子・高齢化社会でありこの社会を支えるには今の医療・介護体制では不十分で、しかもその中で多くのニーズに応えなければならない時代である」といわれています。医療と暮らしの両面を支え、在宅を基盤とした看護・介護への展開が必要とされています。長年頑張っ

こられた高齢者の「身体と心」をほぐし、又元気になって地域へ帰っていただくための療養の場の施設として、状態が安定している入所の方が在宅復帰ができるよう、リハビリテーションを中心としたケアを行い、援助をさせていただく事を年頭に掲げたいと思います。



ケアハウスリバーサイド  
看護師長 矢倉 ツヤ子

2011年はあらゆる意味において、変革変動の年となりました。

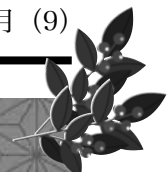
お蔭様でリバーサイドにおきましては、創立10周年を迎えることができましたことを深く感謝申し上げます。

今春からは24時間包括ケアも始まり、更に安心安全、安らぎに満ちた豊かな暮らしをご提供できる

こととなります。

皆様のご教示を頂きながら職員一同、鋭意努力してまいります所存です。





# よろしくお願ひ致します～



通所リハビリテーション  
真誠会  
看護師長 佐平 登志美

2012 年は、「団塊」の世代が 65 歳に到達し今後は 65 歳以上の割合は 2.5 人に一人、後期高齢者は 4 人に一人という社会に向かっていきます。

地域における介護の課題は、介護になっても在宅で過ごしたい高齢者が多いことです。通所サービスとしては、在宅重視の流れに沿って、利用者様の健康管理、リハビリテーションによる在宅生活の継続、家族

の方の休息を今まで以上にきめ細やかに提供します。



介護老人福祉施設 ピースポート  
看護師長 安田 浩子

希望に満ちた新しい年を迎えられたことと思います。

今年も「その人らしい生活」「寄り添うケア」を中心とし、お一人お一人の個性が活き、その方のリズムに沿った生活を大切にしたいと願っています。ご家族様にも面会に行ってみよう、行ってみてよかったと思っただけのよう、安心して快適なサービスの質の向上、充実を目指して取り組んでまいります。

の質の向上、充実を目指して取り組んでまいります。



真誠会セントラルクリニック  
副看護師長 市川 登志子

真誠会セントラルクリニックは、在院日数の短縮を今年度も目指して、入院時から退院計画スクリーニングを行い連携センター、ケアマネージャー、相談員との連携を強化します。安全なサービスの提供をするために各職種が連携をとる。看護の質を高めるために、固定チーム継続受持制の強化。記録の充実に力を入れていきます。そうすることで利用者様、患者様の満足につながります。24 時間巡回訪問モデル事業も始まっており、協力体制を取って行きたいと思っ

たと思っています。



真誠会セントラルクリニック  
薬剤科  
科長 木村 幸美

昨年 5 月に薬剤師の増員があり、一人で孤軍奮闘(?)してきた薬剤科も、やっと二人体制となりました。

今後は、薬剤関連の基盤整備を進めていくことも重要ですし、医療チームの一員としての役割もより積極的に進めてゆきたいと考えています。

高齢化社会の実情に伴って、真誠会の老健をはじめとする介護施設でも、お薬の量や内容が、病院に入院中の患者様と変わらないレベルとい

うケースが増えてきました。

高齢者は、様々な要因によりお薬の副作用が非常にしやすい状態にあります。

医療機関であるセントラルクリニックはもちろん、ゆうとぴあ・弓浜ゆうとぴあなどの介護施設においても、「安心して安全な薬物療法の提供」を各専門職種・各施設と連携を強化しながら推進してゆきたいと思っ



栄養課  
係長 伊藤 朋子

現在、国をあげて地域包括ケアシステムの構築に向けての取り組みが進んでいます。栄養課としても専門職の一員として多職種と連携し、地域に向けての活動を行っていきたく考えています。介護状態にならないための予防活動、要介護状態の重度化予防の活動のためにリハビリテーションは重要で

す。そして、リハビリテーションをしっかりと行うためには、まず栄養状態を良好に保つことが必要です。また、高齢者の場合、栄養状態が一度低下するとその改善は容易ではありません。栄養士がもっと身近な存在になり、栄養に関する様々な相談に気軽に応じることが出来るよう、取り組んでいきたいと思っています。



介護予防センター真誠会  
責任者 山崎 慎吾

予防センターは今年で開所 5 年目を迎え、自分自身も事業所長として 5 年目に突入します。開所当時はご利用者様の登録が約 50 名程度でしたが、現在は 100 名の登録になり、事業所として大きく成長してきました。

来年度、法改正の方針の中に予防重視ということもあり、さらにサービスの質、運動プログラム

の効果等にも重点を置かなければいけません。予防センターのモットーとして、「安心」「安全」「楽しい」運動プログラムを提供できるように、職員一同努力していきます。

米子で一番最初に開所した予防センターとして誇り・責任を持ち、今年 1 年も先頭を走って行きたいと思っ

ています。また、自分自身の目標として「リーダーシップを磨く」を追求していきたく



医療法人真誠会  
総務課長 角 琢治

今年 4 月には、介護保険と医療保険の同時改定が行われます。

医療と福祉の複合体である私たち真誠会は、1 日でも長くご利用者様が自宅でお過ごし頂けるように「地域包括ケアシステムの構築」に向けて、24 時間巡回型訪問介護・看護サービスなどの新しいサービスや、在宅生活を支える「高齢者生活支援隊：食事、清掃等、ご自宅での生活を支えるサービス」を鳥取県西部の皆様にご利用頂き、真誠会がこの米子にあって良かったと思っ



社会福祉法人真誠会  
総務課長 前田 浩寿

て頂けるよう、皆様の生活を支援してまいりたいと思っ

ています。また、本部総務課長として保険制度を理解・活用し、ご利用者様に最善のサービスをお届けできるよう努力いたします。

# 新年のご挨拶 ～本年もよろしくお願ひ致します～



小規模多機能センター  
真誠会ふる里  
管理者 宇野 理奈

「地域密着の使命」のもと、平成 18 年 8 月に開所して以来、地域の皆様には変わらぬ熱いご支援、ご協力を賜り、職員一同心より感謝いたしております。

利用者様の大切な生活を共に過ごさせて頂けること、そして地域の皆様からの温かい声が私たちのパワーの源となっています。

利用者様が「地域の中で、その方らしく生活すること」を、ご家族様、地域の皆様と共に手を取り合いながら、お手伝いさせて頂きたいと思っております。職員一同、熱い気持ちで今年も進んでいきます。



通所介護弓浜ゆうとぴあ  
管理者 島津 篤

通所介護弓浜ゆうとぴあに異動し管理者となり、5ヶ月が経ちました。まだ、不慣れな部分が多いかと思いますが、日頃よりご利用者様、ご家族様、地域の皆様方にはご支援、ご協力いただき誠にありがとうございます。今年度も地域の皆様方等の交流を密にし、共に笑い、楽しみ、明るい事業所を目標に活気あるデ

イサービスを目指して今年一年も頑張っていきたいと思っております。



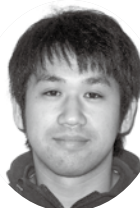
真誠会ローズガーデン  
管理者 松本 光生

真誠会ローズガーデンは、リハビリ強化型デイサービスとして、開所してから今年で2年が経とうとしております。これもひとえに関係各位の皆様方のご支援、ご厚情の賜物と深く感謝いたしております。

3年目を迎えるにあたり「ご利用者様お一人お一人が無理なく、運動習慣を身につけられ、楽しく生活をしていただ

ける事」を目指して、サービス提供を行なっていきたくと思っております。

また、今年は、より地域に根ざしたローズガーデンを目指し、更なる努力をしていきたくと思っております。



真誠会  
セントラルローズガーデン  
管理者 山根 賢一

真誠会セントラルローズガーデンは平成 23 年 9 月 1 日に開所し、皆様のご支援やご協力を頂き、無事本年を迎えることが出来ました。

真誠会セントラルローズガーデンは米子市街に米子中央ホスピタウン構想の第 1 期事業として 3 つの通所サービスを展開しています。また、2 期事業としては、セントラルレジデ

ンス（高齢者専用賃貸住宅）を計画しています。今年の真誠会セントラルローズガーデンは「共に」をテーマに頑張っていきたいと思っております。皆様と共に喜び、皆様と共に気持ちを共有し、皆様と共に歩み、皆様と共に笑っていく施設にしていきたいと思っております。今年も真誠会セントラルローズガーデンでいきいき元気に楽しく笑っていきましょう！

## 第 2 回 介護の日記念イベント開催

「介護の日」を地域の皆様に広く知っていただくために、今年度も 11 月 6 日（日）に第 2 回介護の日記念イベントをイオン米子駅前店 1 階広場にて開催いたしました。お買物に来た方々など約 150 名の方に参加していただき、ボランティアスタッフの説明で介護を身近に感じ、理解と認識を深めていただきました。各ブースとも工夫を凝らした企画で盛大に催しを行うことができました。



高齢者疑似体験で加齢による身体的な変化を体験しました

歩きづらいな！



認知症タッチパネルに挑戦です！  
結果はいかが？



体力測定やセラバンドを使った介護予防体操を体験



管理栄養士による介護食品の説明・相談コーナー



## 第17回米子ホスピタウン真誠会文化展 (11/1(火)～11/7(月)開催)

平成 23 年 11 月 1 日 (火) から一週間、米子ホスピタウンゆうとぴあ広場にて、恒例の真誠会文化展が開催されました。初日のオープニングセレモニーでは、河崎小学校の3年生 44 名による、物語「てぶくろを買いに」の暗唱や合唱などが披露され、参加した入所・通所のご利用者様が熱い拍手を送っていました。

その後には子どもたちに車椅子を押してもらったり、手をつなぎながらゆっくりと絵や手芸などの展示作品を見てまわりました。子どもたちと一緒に作品鑑賞をされている光景はとても微笑ましく、皆さんも喜ばれていました。

後日、児童の皆さんは、職員に「デイケアとは何ですか？」などの質問をいくつか送っていただきました。文化展での交流は施設に関する理解を進めながら、児童とお年寄りとの絆を深めていくきっかけとなったようです。



## 第10回弓浜ホスピタウンふれあい文化祭 (11/17(木)～11/24(木)開催)

平成 23 年 11 月 17 日 (木) から 8 日間、弓浜ホスピタウン 2000 年ホールにて、ふれあい文化祭が開催されました。各施設のご利用者様や職員の作品、弓浜地区の公民館祭でも人気の住民自慢の木彫りや書などの作品が集まりました。オープニングセレモニーでは崎津小学校 4 年生の皆さんの合唱と合奏が披露され、にぎやかな文化祭の開催となりました。絵画や書、手芸や彫刻など約 500 点の展示作品が展示され、皆様作品の力作を感じながら鑑賞されていました。

また、19 日 (土) の午後にはバザーと喫茶が開催され、たくさんのご家族様や地域の皆様にお越しいただき大盛況でした。男性職員も白いフリルのエプロンを身につけて、お客様で満席となった喫茶コーナーでコーヒーやケーキ、抹茶などを運んでいました。



# 2011 年を振り返って

医療法人・社会福祉法人真誠会 理事長  
真誠会セントラルクリニック 院長 小田 貢

昨年はたくさんの事がありました。そして私はたくさんのことに挑戦しました。その主なものを列挙してみます。

## 1. 真誠会セントラルローズガーデン開所／第三のホスピタウン、米子中央ホスピタウンの誕生

米子市の福米西小学校隣地に第三のホスピタウンとなる施設が開所しました。この第三のホスピタウンを中心に米子中心市街地に真誠会理念の福祉を発信したいと思います。真誠会のこれからの大きな発展の起爆剤になります。今までは、米子市北部を中心に活動エリアにしていた真誠会ですが、米子の中心市街地に進出したことは 10 年先に振り返ったときにその重要性を再認識することになると思います。



## 2. 高齢者生活支援隊の発足

高齢者生活支援隊の発足、真誠会米子地域包括ケアセンター設立、24 時間対応の定期巡回・随時対応サービス事業、この三つのプロジェクトで平成 24 年 4 月からの介護保険制度での福祉サービスの基礎ができました。来年の 4 月頃からはお買い物サービスなどあらゆることに対応できる高齢者生活支援が活躍すると思います。

## 3. 日野原先生 100 歳記念「新老人の会」第 5 回ジャンボリー三重大会への参加

三重県伊勢市での日野原先生 100 歳誕生のお祝いと、「新老人の会」全国大会（ジャンボリー）を兼ねたすばらしい会でした。改めて日野原先生の無限の可能性を感じました。

## 4. 地域の活性化活動の成功

- ・市民フォーラム第 2 回認知症サミット鳥取 倉吉で開催
- ・和田町における「米子市認知症徘徊見守り模擬訓練」の実施
- ・第 7 回弓浜助け合いネットワークシンポジウム開催

和田町で行われた模擬訓練は今年のはじめてのものでしたが大成功に終わりました。平成 24 年は更に進歩した徘徊見守り模擬訓練が行なわれる可能性があります。

## 5. 透析施設オアシス 一日 30 例の新記録樹立

オアシス始まって以来 10 年ぶりの新記録を樹立しました。それは一日に 30 例の透析です。今年もがんばって米子市の透析患者さんに信頼される透析を行ないたいと思います。

## 6. 胃内視鏡の症例数が 11 月に月間 100 例の新記録樹立

- ・ 7 月から 12 月までの半年間で 540 例の新記録樹立／
- 11 月には一日 6 例の胃内視鏡新記録樹立

これは小田 貢の個人記録ですが、我ながら良くやったと思っております。平成 24 年はもっと多くの症例に挑戦し、“スーパー”胃カメラ小僧：小田貢、、、となつて若いドクターに負けない記録を残したいと思つています。そして、また患者さんに苦痛のない胃内視鏡（胃カメラ）を実施したいと思つています。



## 7. DARAZ FM のパーソナリティーとして出演

平成 23 年 4 月より、DARAZ FM の新番組「ドクター小田の耳から入るビタミン剤」（コミュニティ FM 放送局 周波数：79.8MHz）で毎週土曜日朝 7 時半から 8 時までの 30 分番組を始めました。毎週土曜日の朝と夜の 2 回放送があり、約 20 分私のトークがあり最後に私からのプレゼント曲を聴いていただく番組です。平成 24 年 3 月まではやり遂げる予定です。

☆来年も真誠会は新聞、テレビ、ラジオなどで連日賑わすことになると思います。



# 復興への祈り

## 粟島神社

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分。

三陸沖を震源とした、国内観測史上最大のマグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震。

誰もが忘れることができません。震災により、多くの方が尊い命と共に家や仕事、生活を失いました。

東北の人々は、震災を乗り越えるために歩み始めておられます。

真誠会の診察室に復興への祈りの気持ちを込めて写真を二枚飾りました。

職員、診察に見えた方と共に、一日も早い復興をお祈りしております。

